

2023年度 特別研究期間制度 適用者

所属	氏名	職位	種別	期間	主たる研究国	主たる研究先	研究題目	研究報告	備考
文	和田 恵里	教授	長期 (1年)	2023.4.1 ～ 2024.3.31	-	本学	『失われた時を求めて』と音楽－フランス・オペラをめぐって	マルセル・ブルーストの小説『失われた時を求めて』においてフランス・オペラが果たす間テクニスト的役割に関する研究。前期はオペラ《ユダヤの女》に関して台本作者スクリーブに関する調査と分析を行った。後半はその他のフランス・オペラの近代における展開がブルーストの小説にどのように反映されているかを検証した。 ・フランスの作曲家レイナルド・アーンの記事に関する書評を執筆。Bulletin d'informations proustiennes no 53 に掲載された。 ・論文 «Les Enjeux de l'opéra français dans la Recherche»が、Proust, la littérature et les arts (共著,H. Champion社、2023年)に収められた。 ・論文「ユダヤの女の成立 台本作家ウジェーヌ・スクリーブをめぐって」が『オペラの時代：音楽と文学のポリフォニー』(共著、荒木善太、和田恵里、福田美雪編集、水声社、2024年)に収められた。	
	佐藤 泉	教授	長期 (1年)	2023.4.1 ～ 2024.3.31	-	本学	「聞き書き」文学の比較研究	2023年度の特別研究期間では、「「聞き書き」文学の比較研究」を研究課題とした。時間の余裕を得て、集中的な研究を進めることができた。成果としては、まず、単著『死政治の精神史』(青土社、2023年)を刊行し、その後、幸い研究会・書評会等で取り上げられ、多くの反響を得られた。その他、近年の研究課題であった大江健三郎論、伊藤計劃論をまとめ、発表することができた。研究期間中には、国内外の研究者との意見交換の機会を得て、「聞き書き」や現代女性文学に関する知見を深めることができた。	
教育人間科学	薬師神 玲子	教授	長期 (1年)	2023.4.1 ～ 2024.3.31	-	本学	(1)認知心理学的実験とシミュレーションを用いた知覚－運動学習プロセスの検討 (2)身体編集を用いた身体性感覚獲得過程の解明とモデル化 (3)VR技術を使った認知リハビリテーションについての研究	3つの研究テーマについて、それぞれ(1)VRを使った新たな実験課題の作成と、それに対応する計算モデルの精査(2)実験結果の再分析、及びそれに基づく新たな実験刺激の生成(3)言語聴覚士の協力の下、言語リハビリテーションの現場で用いられているテストや課題の収集とゲーム作成に当たった問題の洗い出しを行った。期間中に得られた研究成果については、現在公表に向けて準備を進めている。	

2023年度 特別研究期間制度 適用者

経済	高嶋 修一	教授	長期 (1年)	2023.4.1 ～ 2024.3.31	-	本学	近現代日本の鉄道と地域社会に関する経済史的研究	近代日本の山岳観光を鉄道や有料道路などの関係から分析し、次の書籍を執筆した。高嶋修一『山の観光史』（日本経済評論社、2024年6月予定）。また、「くりはら田園鉄道公園 くりでんミュージアム」（宮城県栗原市）所蔵の「くりはら田園鉄道関係資料」を調査し、以前に調査した史料とあわせて次の論文を執筆した。高嶋修一「栗原鉄道の電化と改軌：戦後復興期の地方鉄道企業における設備投資と資金調達」（『青山学院大学』経済研究』16巻, pp. 13-58, 2024年3月、青山学院大学経済研究所）。	
法	塩谷 直也	教授	長期 (1年)	2023.9.1 ～ 2024.8.31	-	本学	①『説教試論』執筆 ②新設講義「キリスト教と人権」の資料収集 ③ICTを活用した聖書講解の技術開発	著書『月曜日の復活』を上梓。これまでの説教論をまとめた前半と、説教作成の過程で生まれた新たな気づきを綴った後半で構成されています。また、新設講義「キリスト教と人権」では、イエスとマリアの関係を新たな視点から読み解き、現代社会にも通じる普遍的なテーマを探索しました。さらに、聖書講解のICT化にも取り組み、より効果的な宣教の実践を目指しています。	
経営	竹田 賢	教授	長期 (1年)	2023.4.1 ～ 2024.3.31	-	本学	予測困難な時代におけるビジネスデザインとサプライチェーン設計に関する基礎研究	VUCA時代において、企業が持続的な成長を続けるには、全体俯瞰力、構想力、実行力という3つの視点に着目する必要性を、様々な企業へのヒアリングや文献調査などで明らかにすることができた。すなわち、実行力に該当するサプライチェーンマネジメントをいかに高めても企業の持続力維持には繋がらず、全体俯瞰力、構想力を同時に考えながらビジネスをデザインすることが重要であることが分かった。総括として、高度サプライチェーンの人材育成には、これら 3つ能力の和としてではなく、積として捉えられる視点を持って検討することが不可欠であると言える。	
国際政治経済	友原 章典	教授	長期 (1年)	2023.4.1 ～ 2024.3.31	-	本学	生産要素の国際的な移動（移民など）が地域経済に与える影響	外国人が増えると犯罪が増えると懸念されることがあります。実際はどうなのでしょう。これまでの研究は国全体で見た影響が研究されてきましたが、この研究は移民(または外国人)が地域に与える影響を分析する点が特色です。特に、地域の特徴によって、その影響がどのように変わるかを東京都のデータを使って分析しました。分析の結果、地域に占める外国人数の割合と犯罪件数の関係は、既存研究が想定するような直線的なものではなく、外国人数の割合が変わることで増えたり減ったりと変化する可能性があります。	

2023年度 特別研究期間制度 適用者

総合文化政策	川又 啓子	教授	長期 (1年)	2023.4.1 ～ 2024.3.31	-	本学	メガマーケティングによるゲーム/eスポーツの社会的受容促進に関する研究	著書『eスポーツ社会論』同友館、論文「ゲーム産業における新展開：ゲームイベント視察報告」『青山総合文化政策学』15.1 (2024): 73,75-104.を刊行し、学会報告1、シンポジウム1を行った。 ゲームは代表的なスティグマ製品だが、アニメやマンガもスティグマ製品に含まれるため、コンテンツを活用した地域活性化策に関する研究にも着手した。	
国際マネジメント研究科	市野 初芳	教授	長期 (1年)	2023.4.1 ～ 2024.3.31	-	日本、マレーシア	コーポレート・ガバナンス・コードにおける取締役会評価に関する研究～日本とマレーシアのガバナンス・コードの比較研究を中心にして～	特別研究期間では、マレーシアを訪問し、イスラム科学大学 (USIM)経済・イスラム金融学部のアスタファ教授と共同研究を実施することになった。テーマは、日本とマレーシアの上場企業におけるコーポレート・ガバナンスの実態、とりわけ取締役会の実効性の評価について比較研究することである。特別研究期間において、ムスタファ教授の指導により、イスラム系企業におけるシャリヤ・ガバナンスの考え方を整理することができた。ムスタファ教授とテーマを絞り共同研究への着手に至ったことは、今後の研究成果を得るための第一歩となったと考えられる。	
国際マネジメント研究科	北野 泰樹	准教授	長期 (1年)	2023.9.1 ～ 2024.8.31	-	本学	次世代自動車の普及促進に向けた計量経済分析	次世代自動車(EV)普及に係る要因と、それに影響する政策としてスクラップ・インセンティブ政策などの計量分析を進めた。分析、補助金対象車種の設定、補助金の政府・企業間の負担割合の違いに注目しつつ、の設定などが消費者の買い替え行動に与える影響を評価するものである。執筆・改訂した論文は国際コンファレンスである Asia Meeting of Econometric Society (2024年8月)などで発表した。その他、PROTO 社から提供を受けた中古車情報に係る大規模データを用いて、EVと普通車の中古車価格の変動の違いに注目しつつ、消費者によるEV購買行動の分析を進めた。	
会計プロフェッション研究科	町田 祥弘	教授	長期 (1年)	2023.4.1 ～ 2024.3.31	-	本学	内部統制の有効性評価に関する経営者と監査人の判断に関する研究	本研究では、2023年3月に改訂された内部統制報告制度について、制度改訂の趣旨と課題を専門誌掲載の論文として公表している。また、改訂制度の適用状況等について、監査法人や上場企業等に対してインタビュー調査を実施した。この調査を基に今後、質問紙調査を実施し実証的な分析を実施する予定である。	

2023年度 特別研究期間制度 適用者

経済	山本 真司	教授	長期 (1年)	2023.8.1～ 2024.7.31	イギリス、日本	オックスフォード大学、本学	初期近代英国における新教徒移民流入の社会文化的影響について	本研究は、宗教改革後に起こった大規模な新教徒移民流入が初期近代英国の社会や文化に与えた影響について学際的に検証した。前半では、主に国内で研究資料の収集と調査資料の整理を進めた。後半は二度の渡英により、ロンドンとオックスフォードの図書館・博物館等で調査研究を実施した。英国での調査結果の一部は、エンブレム研究会にてグローバル視覚芸術の観点から発表・報告した。初期近代英国の料理文化や移民表象に焦点を当てた論文・書籍が、来年度には刊行される予定である。初期近代英国移民表象のグローバルな翻案に関する英語論文が、国際共著論文集に収録予定である。	
----	-------	----	------------	------------------------	---------	---------------	-------------------------------	---	--